

●昭和53年1月20日印刷

●昭和53年3月1日発行

●編集・発行者 竹島紀元

●編集スタッフ

塚本雅啓／松尾定行／宮原正和
日比 彰／沖 勝則

●アートディレクト 岡田徹也

●発行所

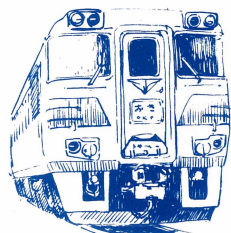
(株) 鉄道ジャーナル社

〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6

日産ビル 電話03(264)1891・1892

振替口座 東京 9-82820

●印刷所 凸版印刷株式会社



蒸気機関車の活躍舞台をほとんどそのまま引き継ぎ、未電化幹線や非電化ローカル線の旅客輸送を一手に引き受けている「動きもの」の気動車であるが、その歴史はそれほど古くはない。戦後20年代後半に開発された標準型ディーゼル機関と液体変速機により長大編成の総括制御が可能になり、電車に準じる機能を持つようになったことが、今日の隆盛をみた直接の原因であったといえよう。31年には準急形キハ55系、35～36年には特急形キハ81・キハ82系が次々登場、つづいて急行形キハ58系も顔をそろえて、気動車による特急・急行・準急網が全国に張りめぐらされていった。同時に、幹線の優等列車にふさわしい出力の増強が最大の課題となり、500 PS 機関つきのキハ181系・キハ65～67形が登場したが、出力増強にいとむ技術陣の戦いはまだ終わっていない。一方では幹線の電化が進み、気動車特急の舞台は徐々に狭まりつつある。北海道・四国など一部の地区を除いて、いずれは電車特急にバトンを渡す日がくるであろう。現在を生きつつ「新しい時代」の飛躍に備える——日本の鉄道が当面している深刻な課題を、気動車特急もまた背負っているといえよう。

定価530円
〒60円

1978-3

もくじ

- 7 レールウェイ・レビュー 気仙沼線全通に思う
8 ニュース・ファイル(国鉄・私鉄・海外鉄道の動き)

シリーズ・日本の鉄道③

15 三陸縦貫鉄道

編集部

- 32 さんりくの海 どこまでも青く 北野四郎／松尾定行

●特集 気動車特急のすべて

- 41 国鉄特急形気動車の系譜 編集部

- 51 気動車特急の運用 木村晃夫

- 55 エンジンの唸りも高らかに (カラーグラフ)

- 59 キハ82系の北のふるさと 函館運転所 松尾定行

- 67 181系気動車のプロフィール 編集部

ドキュメント・列車追跡②

- 74 特急<おき2号> 日本海岸を駆ける 山田 亮

新・RJメカニズム③

- 80 強力型エンジン

- 82 強力型ディーゼル機関の開発と設計 真野 竝

- 86 ポスターと書物のドラマ③ 佐々木桔梗

- 88 よみがえる都電 黄色い風物詩 堀 瑞穂／渡辺直之

- 94 都電の改造車 新7000形がデビュー 赤熊 昇

- 96 新時代の鉄道を考える(後)

須田 寛／山之内秀一郎／加藤 亮／生方良雄

- 102 国鉄運賃の変遷と決まりかた(中) 種村直樹

新・ヨーロッパの鉄道-3

- 107 よみがえる都市鉄道 山之内秀一郎

- 115 てつどう・ざつがく③ 鉄道運賃と生活実感 本島三良

- 123 車両とともに30年⑬ 田邊幸夫

- 131 タブレット

- 134 次号予告／ジャーナル編集室／乗務員室

ブルー・トレイン

- ◆ワイドレンズ(116)◆RJクイズ／鉄道友の会だより(117)◆鉄道記事ざっくばらん／魚眼(118)◆外国雑誌紹介／新刊紹介(119)◆Q & A／ズームレンズ(120)◆マスコミと鉄道／伝言板(121)◆車両基地(122)

表紙／春の陽ざしをあびて(特急<南風>)——カメラ・編集部